

1.	プロスタグランジンは、脳の下部にある体温を調節する部位（温熱中枢）に作用して、体温を通常よりも高く維持するように調節する。
2.	イブプロフェンは、一般用医薬品においては、15歳未満の小児に対しては、いかなる場合も使用してはならない。
3.	カフェインは、腎臓におけるカリウムイオン（同時に水分）の再吸収抑制があり、尿量の増加（利尿）をもたらす。
4.	トリメトキノール塩酸塩水和物は、交感神経系を刺激することで気管支を収縮させ、咳や喘息の症状を鎮めることを目的として用いられる。
5.	コデインリン酸塩水和物、ジヒドロコデインリン酸塩は、胃腸の運動を低下させる作用も示し、副作用として便秘が現れることがある。
6.	点眼後に目尻を押さえると、薬液が鼻腔内へ流れ込むのを防ぐことができ、効果的とされる。
7.	小児鎮静薬は、症状の原因となる体質の改善を主眼としているものが多く、比較的長期間（1ヶ月位）継続して服用されることがある。
8.	健胃薬は、炭水化物、脂質、タンパク質等の分解に働く酵素を補う等により、胃の内容物の消化を助けることを目的としている。
9.	タンニン酸ベルベリンは、牛乳にアレルギーがある人では使用を避ける必要がある。
10.	メクリジン塩酸塩は、他の抗ヒスタミン成分と比べて作用が現れるのが遅く、持続時間が長い。
11.	クロモグリク酸ナトリウムは、アレルギー性でない鼻炎や副鼻腔炎の諸症状のうち、鼻づまり、鼻水等の緩和を目的として配合される。
12.	ジフェニドール塩酸塩は、内耳にある前庭と脳を結ぶ神経（前庭神経）の調節作用のほか、内耳への血流を改善する作用を示す。
13.	マルツエキスは、主成分である麦芽糖が腸内細菌によって分解（発酵）して生じるガスによって便通を促すとされている。
14.	デキサメタゾンとは、ステロイド性抗炎症成分であり、患部が広範囲にわたっている人では、短期間の使用であっても、適用部位に限る等、過度の使用を避けるべきである。
15.	消化管内容物の消化・吸収に伴って駆虫成分の吸収が高まることから、食後に使用することとされているものが多い。
16.	貧血は、その原因によりビタミン欠乏性貧血、鉄欠乏性貧血等に分類されるが、鉄製剤で改善できるのは、鉄欠乏性貧血のみである。
17.	漢方処方製剤は、用法用量において適用年齢の下限が設けられていない漢方処方製剤は、生後3ヶ月未満の乳児にも使用することができる。
18.	アズレンスルホン酸ナトリウムは、消化管内容物中に発生した気泡の分離を促すことを目的として配合されていることがある。
19.	スプレー式鼻炎用点鼻薬は、容器をなるべく鼻に密着させて使用し、使用後には鼻に接した部分を清潔なティッシュペーパー等で拭いて清潔に保っておく必要がある。
20.	噴射式の液剤では、息を吸いながら噴射すると気管支や肺に入ってしまうおそれがあるため、軽く息を吐きながら噴射することが望ましい。
21.	痔による肛門部の創傷の治癒を促す効果を期待して、組織修復成分であるイソプロピルメチルフェノールが配合されている場合がある。
22.	アドレナリン作動成分が配合された点鼻薬は、過度に使用されると鼻粘膜の血管が反応しなくなり、逆に血管が拡張して、鼻づまり（鼻閉）がひどくなりやすい。
23.	スクラルファートは、透析を受けている人は使用を避ける必要がある。
24.	パモ酸ピルビニウムは、アセチルコリン伝達を妨げて、回虫及び蟯虫の運動筋を麻痺させる作用を示す。
25.	コレステロールは細胞の構成成分で、コレステロールの産生及び代謝は、主として脾臓で行われる。
26.	パンテチンは、低密度リポタンパク質（LDL）等の異化排泄を促進し、リポタンパクリパーゼ活性を高めて、高密度リポタンパク質（HDL）産生を高める作用があるとされる。
27.	ツツガムシは、ツツガムシ病リケッチアを媒介するノミの一種である。
28.	フェノトリンは、シラミの刺咬による痒みや腫れ等の症状を和らげることを目的として、シャンプーやてんか粉に配合されている。
29.	痔瘻は、肛門の出口からやや内側の上皮に傷が生じた状態であり、一般に、「切れ痔」と呼ばれる。
30.	口腔咽喉薬には、声がれ、喉の荒れ、喉の不快感、喉の痛み又は喉の腫れの症状を鎮めることを目的として、グリチルリチン酸二カリウムが配合されている場合がある。

31.	早朝尿（起床直後の尿）は、尿中hCGが検出されにくいいため、妊娠検査薬の検体として向いていない。
32.	オキセサゼインは、局所麻酔作用のほか、胃液分泌を抑える作用もあるとされ、胃腸鎮痛鎮痙薬と制酸薬の両方の目的で使用される。
33.	月経前症候群とは、月経の約10～3日前に現れ、月経終了と共に消失する腹部膨満感、頭痛、乳房痛などの身体症状や感情の不安定、抑うつなどの精神症状を主体とするものをいう。
34.	大豆油不けん化物（ソイステロール）には、腸管におけるコレステロールの吸収を抑える働きがあるとされる。
35.	高コレステロール改善薬は、ウエスト周囲径（腹囲）を減少させるなどの痩身効果を目的とした医薬品である。
36.	ロクジョウは、ウシ科のウシの胆嚢中に生じた結石を基原とする生薬である。
37.	一般的に、じゅくじゅくと湿潤している患部には、軟膏が適すとされ、皮膚が厚く角質化している部分には液剤が適している。
38.	イカリジンは、年齢による使用制限がない忌避成分であり、蚊やマダニなどに対して効果を発揮する。
39.	禁煙補助剤を使用する際は、喫煙量を徐々に減らしていくよう指導する。
40.	アルジオキサはマグネシウムを含む成分であるため、透析を受けている人では使用を避ける必要がある。
41.	クレゾール石ケン液は、一般細菌類、真菌類に対して比較的広い殺菌消毒作用を示すが、大部分のウイルスに対する殺菌消毒作用はない。
42.	トコフェロールは、腸管でのカルシウム吸収及び尿管でのカルシウム再吸収を促して、骨の形成を助ける作用がある。
43.	酸性やアルカリ性の消毒薬が目に入った場合は、中和剤を使って早期に十分な時間（15分間以上）洗眼するのがよい。
44.	眠気防止薬におけるカフェインの1回摂取量はカフェインとして200mg、1日摂取量はカフェインとして500mgが上限とされている。
45.	ジオクチルソジウムスルホサクシネート（DSS）は、腸内容物に水分が浸透しやすくする作用があり、糞便中の水分量を増して柔らかくする。
46.	浣腸薬を繰り返し使用すると直腸の感受性が増強し、効果強くなる。
47.	サザピリンは、ピリン系の解熱鎮痛成分であり、ピリン疹と呼ばれるアレルギー症状をもたらすことがある。
48.	禁煙補助剤は、口腔内が酸性になるとニコチンの吸収が上昇するため、コーヒーや炭酸飲料などを摂取した後しばらくは使用を避けることとされている。
49.	かぜの約8割はウイルスの感染が原因である
50.	3歳未満では乗物酔いが起こることはほとんどないとされており、3歳未満向けの鎮痛薬は販売されていない。

## 3章 ○×-3 こたえ

番号	解答	解説 (×のみ)
1	○	
2	○	
3	×	カリウムではなく、「ナトリウム」
4	×	収縮ではなく、「拡張」
5	○	
6	×	目尻ではなく、「目頭」
7	○	
8	×	問題文は健胃薬ではなく、「消化薬」の内容になっている。健胃薬は、「弱った胃の働きを高めること（健胃）」が目的。
9	×	タンニン酸ベルベリンではなく、「タンニン酸アルブミン」
10	○	
11	×	クロモグリク酸ナトリウムは、アレルギー性でない鼻炎や副鼻腔炎に対しては「無効」
12	○	
13	○	
14	○	
15	×	食後ではなく、「空腹時」
16	○	
17	×	生後3ヶ月未満の乳児には「使用しない」とされている
18	×	アズレンスルホン酸ナトリウムではなく、「ジメチルポリシロキサン（別名ジメチコン）」
19	×	「鼻に密着させて」ではなく、「直接鼻に触れないように」使用する
20	○	
21	×	イソプロピルメチルフェノールは「殺菌消毒成分」である
22	○	
23	○	
24	×	パモ酸ピルビニウムではなく、「ピペラジンリン酸塩」。パモ酸ピルビニウムは、「蟻虫の呼吸や栄養分の代謝を抑えて殺虫作用を示す」。
25	×	脾臓ではなく、「肝臓」
26	○	
27	×	ノミではなく、「ダニ」
28	○	
29	×	痔瘻ではなく、「裂肛」
30	○	
31	×	検出されやすい早朝尿（起床直後の尿）が向いている。
32	○	
33	×	月経終了と共にではなく、月経「開始」と共に
34	○	
35	×	瘦身効果を目的とする医薬品では「ない」。
36	×	ロクジョウではなく、「ゴオウ」の内容。ロクジョウは雄鹿の角化していない幼角が基原。
37	○	
38	○	
39	×	喫煙を完全に止めたうえで使用する
40	×	マグネシウムではなく、「アルミニウム」
41	○	
42	×	トコフェロール(ビタミンE)ではなく、「カルシフェロール(ビタミンD)」
43	×	酸やアルカリが目に入った場合は、「流水」で早期に十分な時間（15分間以上）洗眼する。 酸をアルカリで中和したり、アルカリを酸で中和するといった処置は、熱を発生して刺激をかえって強め、状態が悪化するおそれがあるため適切ではない。
44	○	
45	○	

46	×	浣腸薬を繰り返し使用すると直腸の感受性の低下（いわゆる慣れ）が生じて効果が弱くなる。
47	×	サザピリンは、「サリチル酸系」解熱鎮痛成分である。ピリン系は、「イソプロピルアンチピリン」
48	×	上昇ではなく、「低下」
49	○	
50	○	